

麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 麻生鳥のさえずり公園

第 31 号 2010 年 12 月 31 日発行 発行 ; 麻生多摩美の森の会
発行責任者 ; 間野 洋 編集者 ; 木村 信夫

森の恵みと歌で祝う...第 10 回植樹祭 & 収穫祭報告 実行委員長 木村信夫

10 回目を迎えた今年、これまでの歩みを見つめ、次の 10 年への願いを込めたイベントにと、実行委員会で企画を練りました。

第 1 回に植樹した木々も大きくなり、かつての里山らしい林相になりました。いっぽう、小さな畠では年々、芋・麦の収穫があります。こうした森の成長と恵みを、皆で確かめ楽しむ催しに、というのが第一のねらいです。

もう一つ、貴重な緑環境を活かし、地域のより多くの方々と交流・連携できる場にしたと、去年より地元の女性コーラスグループ「アンサンブル・アミーチ」のご協力をいただき、歌声の流れる植樹祭ができました。今年は音楽家、荒瀬順子さんにマリンバ演奏をお願いできることになり、テーマを「第 10 回を森の恵みと音楽で祝おう」としました。

11 月 7 日(日)は好天に恵まれ、250 人というこれまで一番の大盛会となりました。

開会行事に続いて、自然観察指導員の高橋英さんのガイドで、植えて 10 年たった木の観察。里山の代表樹クヌギ・コナラ・エノキ・ケヤキ・アカシデ・オニグルミを回り、花から 2 年かけてドングリが実るクヌギなど、木々の生きざまに触れました。記念植樹は、ヤマボウシ・カツラ・タブの 3 本。高橋さんからそれぞれの特徴や魅力を聞き、3 班に分かれて植樹、名札つけをしました。

続く収穫祭では、磯野麻生区長はじめ多くの方から、お励ましの言葉をいただきました。

豚汁、焼き芋、茹で芋(里芋)など秋の味覚を楽しみながら宴も進んで、荒瀬さんのマリンバ演奏は、ウインド、レインダンス、モ



ミジなど。藤棚下の俄かステージから林間に響きわたる澄んだ音色に、皆さん耳を傾けました。そして、「アンサンブル・アミーチ」の皆さんの歌声。ピアノ伴奏も入り、参加者の合唱も交え、明るい陽ざしのもと、たくさんの曲を楽しませていただきました。フィナーレは、みんなで「今日の日さようなら」。

これからの森づくりとさまざまな出会いに期待のふくらむイベントになりました。地域の皆様のご支援、両会会員のご努力に厚くお礼申し上げます。

植樹祭 & 収穫祭に参加して

マリンバ演奏 荒瀬 順子

多摩美の恵まれた森の下に住んで 16 年。その環境に親しんでこられた幸せを、今回は初めてマリンバを運んで森との対話で体感させていただくことができました。その音は想像していたより柔らかく響き、森の空気と樹々の葉に振動して、包まれるような感覚を覚えました。

演奏後、木々に戯れる子供たちをバックにマリンバの写真を撮ることができたのも収穫でした。集まって下さった多くの方々、スタッフの方々、森への感謝を深くしたところです。

西生田小学校3年生 体験学習実施される 副会長 長澤

西生田小3年生の総合的学習は、例年、秋に麻生区多摩美地区および麻生区市民健康の森を学習の場として体験学習が行われてきました。今年も9月と11月の2回にわたり、私たち麻生多摩美の森の会が中心となって協力し、以下のように実施されました。

第一部「そばの学習」「むぎの学習」

3年生 161人が楽しく学習できるよう、大きく2分割し、さらにまた2分割して、各テーマを学習する方式としました。

実施日時：9月29日(水)、30日(木)

9時30分～11時50分

そばの学習：1日目は森で学習、2日目は雨天のため小学校の視聴覚室

むぎの学習：小学校の家庭科室

1. そばの学習

9月29日は「そば処 樫」の広場に集合。

プロの蕎麦打ちを見学した。そばの実の粉ひき、ねり・のばし・切り、と一連の作業について、マスターの技を見せていただいた。

健康の森の小さな畠で、鎌を使ってそばを刈り取り、実を収穫。すり鉢・すりこぎ・フルイを使って実を砕き、粉と胚芽とそば殻に分別して、そばの実の学習を行った。

最後に「そば茶」を試飲した。

プロのみごとな蕎麦打ちに感激し、畑で恐る恐る鎌を使い、黒くて三角のそばの実の成り立ちを知り、そば茶の香ばしさや美味しさに感動した2時間の体験学習となった。

今年度は、そばアレルギーの児童がいたので、多摩美みどりの会小座間会長が担当し、教室内で緑についていろいろな学習を行った。

9月30日(2日目)は雨天のため小学校の視聴覚室にて、2講座を行う。

そばの実の学習とそば茶の試飲(上記)。

木の葉スタンプ作品づくり。あらかじめ市民健康の森でいろいろな木の葉を採取し、これをスタンプにして、絵の具をつけ、ハガキ

大の用紙に押し描く。色とりどり・模様もさまざまな作品がたくさん生まれた。

2. むぎの学習

市民健康の森の小さな畠で栽培・収穫した麦を学校に持参して、次の学習をした。

麦の名当てクイズを行った。机の上に置いた3種類の麦をよく観察し、「小麦」「大麦」「ビール麦」の短冊をそれぞれの番号に投票。前の白板に投票結果を記入して、正解発表。勘違いもまた楽しく、歓声が上がった。

3種類の麦の名前を確認し、大麦(六条大麦)、小麦、ビール麦(二条大麦)について、それぞれの用途を学習。小麦の麦わらでストローを一人2本作った。

コップに2杯の大麦を、フライパンで焦がし「むぎ茶」を作った(8～9名の班ごとに、1回3名で、繰り返し3回)。

自分たちで作った麦茶を、麦わらのストローで楽しく試飲した。

麦の名前当てでは、大麦と小麦の間違いに涌いたが、これもまた学びのチャンスとなった。ストロー作りでは麦わらの節がちぎれず苦労し、大麦を煎る作業では煙がもうもうで、目が痛く暑さにグッタリしたが、麦わらストローでの麦茶試飲で、満足満足だった。

このたびの体験学習には、当会会員ほか12名のサポーターの方々、および多数のお母さんたちのご協力により、児童たちに事故もなく、順調に実施・終了できた。



麦の種類と用途の学習

第二部「冬の森での学習」

冬の森はどうなっているのか？ 何があるのか？ 西生田小3年生の野外体験学習が市民健康の森で開催された。5クラスの合同で3講座設け、各講座を2分割方式とした。

実施日時：11月30日（火）午前中2時間

学習内容：木や草の種の旅立ち / 森の冬を写生しよう / ネイチャーゲーム（ピングゴ）

1. 木や草の種の旅立ち



自然観察指導員の高橋英さんの指導で、自然界で巧みに生きる植物たちの実や花の不思議を探求。なぜ実は

色づくのか、風に乗り、水で旅をし、動物にくっつき、あるいは自分ではじき飛んで、などなど種の旅立ちのさまざまな姿を学習した。真っ赤な木の実「ガマズミ」を試食し、甘さに感激、児童たちの目が輝いていた。

2. 冬の森を写生しよう

「森といえば、緑豊かで小鳥もいっぱい状況の思い浮かべますが、冬の森はどのような姿をしているか」と、写生に挑戦。初めは困った顔。しかし、子どもたちは個性豊かに、何とか冬を見つけたようでした。

3. ネイチャーゲーム(森のピングゴゲーム)

ミノムシはどこに？ コケのはえた木は？ 冬にアリがいるのか？ などなど、16コマの西生田小オリジナルのピングゴゲーム用紙を手、森のおじさんたちのアドバイスを受け、ところせましと森を探索し、何コマ埋まるかを競いあった。初めて見るミノムシ、アリ地獄、冬にも咲いている花など、次々と発見してピングゴを完成。「たのしかったー」学習となった。

解散の前に、今日の反省会。冬の森は色が違う、木の実が美味しかったなど、子どもたちは何かを心に刻んだようだ。私たちも、エネルギーもらいました。またの日を。

プレーパークに参加して

K.K.

ふだんは静かで穏やかな多摩美の森も、プレーパークの日（麻生プレーパークを創る会主催 10月16日）はとてものにぎやかでした。

木にロープを吊り下げてブランコにしたり、枯葉のプールで葉っぱを掛け合ったり、工作したり、虫探しをしたり、大はしゃぎする子、一生懸命に焚き火をする子、思い思いに森を楽しみました。

私自身もプレーパークで焚き火をしてみ、とても熱中してしまいました。着火はマッチでも、火を大きくして保つのが難しく、多摩美の森の会の方に風の入る方や薪の組み方などを教えていただきました。同じ地域に住んでいても、なかなかゆっくり話す機会のない方とお会いして、お話しのできる場になってよかったです。

四季折々の森の表情を利用した遊びを楽しみながら、今後もプレーパークに参加したいです。



写真
2010年1月

里山研究に多摩美の森を訪ねて

東京大学農学部緑地創成学研究室 土屋一彬

先日、調査のために訪問させていただきました土屋と申します。短い時間ではごさいましたが、秋の陽気のもと、多摩美の森を満喫させていただきました。

私の研究テーマは、「里山保全における行政、所有者、市民それぞれの役割」です。

私の現在進めている研究では、おおむね10年以上活動を続けられてきた市民団体の多くで、新規参加者が集まらず、活動が縮小されつつあることが明らかになりました。こうした問題の解決は容易ではありませんが、絶えず新しい活動にチャレンジし、さらに市民を巻き込んでいくことが重要ではないかと感じています。

これからの多摩美の森の会のさらなる発展を、期待しています！

多摩美の森の会の会員になって

井上正樹

私は休日に自宅近くの香林寺の森を出発点とし、細山の竹藪、多摩美ふれあいの森、市民健康の森と、鶯の鳴き声に釣られて散歩するのが日課になっていた。昨年10月頃、多摩美の森で会員の方々が汗を流しているのを見て、散歩でただ通り過ぎるのでは申し訳ないような気持ちになり、広報担当の木村さん宅に電話していた。

また、定年を過ぎて、ボランティアのひとつくらいはして、世のため、人のためになりたいとも思っていたときでもあった。会員の皆さんは人の良い方で、平均年齢もかなり高いようだった。でも皆さん、歳より元気に見受けられた。

入会して1ヶ月も経たないうちに、風邪をこじらせて肺炎に罹り2ヶ月休んでしまった。4ヶ月程何もしないでぶらぶらしていたが、これも偶然なのか植木の会社に幸運にも就職することができた。一級造園施工管理技士の学科試験に合格し、12月5日の実地試験に向けて目下勉強中。しかし、そんな中で、今年の植樹祭&収穫祭では、子供たちと一緒に、樹木の名前と特徴を、講師の高橋英さんから学んだ。試験に合格しても樹木の名前も知らないようでは恥ずかしい。

今回の植樹祭&収穫祭の私の役目は施設設営係と自分で承知し、机・椅子・テント等の運搬や設営、特に音楽の会場設営にスコップを使い地盤のレベル確保に汗を流した。晴天にも恵まれ250名の参加者で大いに盛り上がったイベントだった。全員で後片付けを終わらせてから、ブルシートの上で、燦々と輝く太陽の下で、初対面の方々と飲み食いしながらの語らいは楽しいものだった。

来年はサラリーマンの現役のお父さんやお母さんたちにもボランティア会員の募集の輪を広げていきたい。

今後の活動予定 副会長 中谷一郎

11月に最大のイベントの第10回植樹祭&収穫祭を終え、活動に一区切りがつかしました。新年からは、来期に向けて、追々、皆で無理をせず楽しめる企画を考えたいと思いますので、ご協力よろしくお願ひします。

今後の活動予定は下記の通りです。

- 1月 8日(土) 初出の行事、下草刈り、清掃
- 1月15日(土) プレーパークへの協力
- 1月16日(日) 樹木の手入れ、下草刈り
- 1月29日(土) 里地里山ナチュラリスト入門講座 10回目「里地里山作業とコミュニティ」講演 萩原哲氏・間野洋会長(於 多摩美の森、多摩美町会会館)
- 2月 5日(土) 樹木の手入れ、下草刈り
- 2月20日(日) 高野楨の植樹(予定)
- 3月 5日(土) 里山フォーラム in 麻生(活動の展示と交流)
- 3月20日(日) 樹木と畑の手入れ、下草刈り

なお、この間の補助作業日は第2、4水曜日で、1月12、26日、2月9、23日、3月9、23日です。10月~5月の作業時間は10時~12時です。

会員募集中です 一度見学にお出で下さい。里山の楽しさを親子で味わってください。年会費1,000円。

麻生区のホームページで、市民健康の森を紹介、本紙のバックナンバーも見られます。
<http://www.city.kawasaki.jp/73/73tisin/miryoku/sanka/mori.htm>

皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

<問合せ・連絡先>

間野 洋 044-966-7233

mano-h@jcom.home.ne.jp

木村信夫 044-954-7855

kimura-yatsu@nifty.com